



KSKQ 萌風香 2021 年度 秋号

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

社会福祉法人萌 広報紙 NO.74 2021.10.17 編集人 社会福祉法人萌 定価 150 円
〒630-0256 奈良県生駒市本町 7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

萌創立 20 周年に想う ～歴代理事長からのメッセージ①～



萌の出発点 作業所時代 左からひだまり共同作業所【生駒】マインドホーム高田【大和高田】ふれあい工房【大和郡山】 右は法人設立のための手作り募金箱

社会福祉法人萌は、今年 8 月 30 日に創立 20 周年を迎えました。

これもひとえに、作業所時代からともに活動してくださった地域の皆さま、応援いただきました関係者の皆さまのおかげです。厚くお礼申し上げます。

奈良県では、平成5年から精神障害のある人たちの活動の場として、家族会が中心となって共同作業所づくりが始まりました。「ひだまり共同作業所」「マインドホーム高田」「ふれあい工房」などの作業所が、萌の出発点です。

定員19名の小さな作業所には毎日多くの人が集まり、その活動は内職作業や楽しい会話だけに留まりませんでした。

障害があっても自分らしく暮らせる「社会」を作ろうという思いから法人化を目指し、障害者の生活支援や就労支援の事業に訪問事業も加えて、平成13年8月に「社会福祉法人萌」を設立。

「誰もが生き活きと自分らしく暮らせる心豊かな社会を創造します」という大きな理念を掲げて一歩一歩前に進み、今では5つの拠点30カ所の事業所で 700 名近くの利用者の方たちとともに活動する法人となりました。



20年前に比べると、福祉サービスの数や種類は増え、社会全体が「多様性を認める社会」へと変わりつつありますが、障害者の生きづらさがなくなったかといえば、そうではありません。

「障害があっても施設や病院でなく自分の家で暮らしたい。普通に働きたい」と願っても、それを当たり前のこととして受け入れ、包み込む力が社会に備わっていなければ実現することはできません。

また、うつ病や依存症など「心の健康」にまつわる問題は年々増え続けていましたが、孤立や孤独、自殺する人の増加、ヤングケアラーを含めた家庭内介護の負担といった問題がコロナ禍の影響で一気に加速したように思います。

更に今から20年後には超少子化、高齢化社会が到来し、人口が減少することで、人々の生活における課題はますます複雑で多様になることが予測されます。

私たちは次の 20 年で、障害のある人たちへの支援の充実、福祉人材の育成、経営の安定化などを軸に組織として成長しながら、変化していく人々の生活課題や福祉需要、地域課題に積極的に取り組み、地域で求められる社会福祉法人の役割を発揮してまいります。

引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

吉川 郁子 (在任期間 2017.6～現在)

萌創立 20 周年に想う ～歴代理事長からのメッセージ②～

10 年ひと昔と昔から言うが、今では 20 年も過ぎて見れば走馬灯のようだ。萌の 10 年の頃は、まだ精神疾患についての遅れは鮮やかだった。



医療の面でも、精神分裂病が統合失調症へと名称が変えられたが、隔離的な治療の傾向は変わっていない。周辺の人々の意識も、当時「きょうされん」が創った映画、「ふるさとを下さい」の場面が現実であった。

ところが、精神障害を含む障害者全体が、日本だけでなく世界中で障害者の 10 年や障害者権利条約が提起され、精神障害者も医療費助成や旅客運賃割引きなども、家族会や関係者のねばり強い運動で大いに進んできた。

今では障害問題については、政治的には「合理的配慮」が必要不可欠となっている。

パラリンピックにも目を見張るものがある。例えば、100m 競争では、金銀銅メダルは 23 個ずつ用意されたそうだが、それ程、多種多様な障害について配慮がなされたからだろう。

パラリンピックだけでなく、盲ろう者のためのデフリンピックや知的障害者のためのスペシャルオリンピックスなども提起されている。

世界中がコロナ危機で模索しているときに、障害者イベントは聖域だというような状況は問題だが、全ての障害者を含む多種多様な人々の存在を世界中が認め合う考え方は素晴らしい。

萌 20 周年の私たちも、いまや全国の同じ障害を持つものと肩を並べ、胸を張って歩みたいと思う。

仲田 昭七 (在任期間 2000.8～2013.8)

2002 年の 4 月、郡山にふらっとが誕生しお披露目の会に出席した時です。新しい建物の広々としたスペースに、まっさらのテーブルや椅子が並んでいるのを目の前にして、「障害者の施設でもここまでできるのか、なるほどなー」と思いました。



なぜかという、ふらっとの誕生の前に、講演会でその当時、JHC 板橋の寺谷隆子さんが、「障害者の施設だからといってお古でないといけないことはない」と聞いたことが、頭に残っていました。それがこういうことなのか!と実感できたんです。

萌は、家族として、とてもありがたい法人だと思います。作業所開設から法人化への紆余曲折を経て、ここまで歩んできました。萌は、今後も理念を掲げながら、法人として地道な努力をしていってほしいと思います。

そのためには、支援者の一人一人の個人のスキルが絶対大切です。仕事から逃げずに、少し遠くから距離をもって自分と仕事に向き合っていくことです。そうでないと、支援者もつぶれてしまいます。

今後は、未来へ進んでいくにあたり、ヨットのような操船技術が必要です。制度との間で、生活支援していくのは大変な時代です。ヨットは逆風でも風を利用して前へ進んでいく。直線ではないが、あっちいたりこっちいたりしながらも前へ進んでいきます。そのためには、風をよみながら、船を操る技術が必要なのです。

20 年を迎えた萌は、是非、皆で技術を身につけながら操船して、さらに新しい未来へ進んでいってほしいと願っています。

小林 時治 (在任期間 2013.8～2017.6)

生 駒 エ リ ア

生活支援センターコスモールいこま 0743-73-7000 地域活動支援センターコスモールいこま 0743-73-0900
 ひだまり 0743-85-4196 コミュニティスペースはなな 0743-73-1050
 グループホーム楽都 0743-73-0141

ひだまりが映画のロケ地に

ある日、「生駒市に住んでいる映画監督の田中」といいます。場面緘黙(※)のある男性が主人公の短編映画を撮りたいと企画していきまして、ロケ地を探しています。ここのパン屋さんについて聞いてもいいですか?と青年が訪ねてきました。インターネットで探したところ、市内に福祉事業所があるとわかり、来られたそうです。

海外留学時の最初の頃、言葉もわからず、話せず。短期間とはいえ、場面緘黙のような状況になったことから今回の映画を企画したとのこと。

ロケ地として「パン工房ひだまり」を使いたいと話が進み、映画の準備と並行して、月 2 回程度ひだまりでボランティアをする流れに。

利用者と一緒に作業をしたり、利用者がカメラに慣れるようにと昼食時にカメラを回してみたりしながら、脚本づくりに利用者の言葉や様子が活かされています。



カメラにマイク 撮影準備中☆

「映画に出るにはオーディションがあるの?」「主役の俳優さんや女優さんはどんな人かなあ?」と楽しみにしていました。

そして、いよいよ撮影日。20分の短編映画の中のシーンを撮影するために来た撮影スタッフは、出演者を含め総勢 17 人。人の多さにびっくりです。朝から「いつもどおり店舗前の掃除をして下さい」「いつもと同じように朝礼して下さい」という監督の指示に緊張しながらやってみました。

地域活動
支援センター
コスモールい
こまのサロン
を借りて、コス
モールの利用



ドキドキのスクリーンデビュー

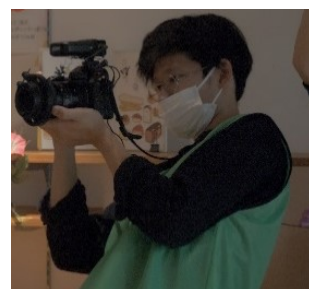
者 2 人と共に、歓迎会たこやきパーティーのシーンの撮影もしました。利用者の詩の朗読やギター演奏もあり、素敵な空間が広がりました。スクリーン越しに観られる日が楽しみです。

田中大志監督に聞いてみました

映画の準備が進みつつある8月のメンバーミーティングで、色々お話を伺いました。

◆いつ映画監督になろうと思ったのですか?

中学2年の時、サマーキャンプがあり、「ここで願い事を叫ぶと叶うらしい」という場所で『映画監督になる!』という願いが湧きました。高校も映像学科のある学校に進んで勉強しました。その後へブライ語を学ぶために留学したイスラエルの大学で、映像の勉強をしました。



田中大志監督

◆すでに監督した作品があるのですか?

学生の時に短編映画「ガリラヤの漁師」という映画を撮ってイスラエルのハイファ国際映画祭学生部門で銀賞を受賞しました。

◆撮影される映画『そのこえ』はいつできるの?

9 月末の撮影後、編集作業に入り、2022 年 1 月に皆さんに観てもらえる予定です。試写会をして、いろんな映画祭にも出品します。

◆ひだまりに来てみて、どうですか?

素敵な方ばかりで、皆さんと話をしていてとても居心地がいいですね。映画撮影への協力、ありがとうございます。

※場面緘黙【ばめんかんもく】

家などではごく普通に話すができるのに、学校や職場など「特定の状況」では、1 か月以上声を出して話すことができないことが続く状態をいいます。

郡山エリア

生活支援センターふらっと 0743-54-8112 地域活動支援センターふらっと 0743-54-3977
ふれあい工房 0743-54-6701 彩食キッチンBon 0743-58-5572
グルームホームもえぎ館 0743-85-4112

服薬の目的とは？

～会員向け「こころの健康講座」を開催～



実例や冗談を交えて

ハートフルこおりやま-精神障害者の社会参加をすすめる会-(小川一雅代表)がこころの健康講座「ココロのクスリ」を開催しました。

講師は中村友喜さん(三重県立こころの医療センター)。薬剤師としての視点からこころの病の治療で使用されるお薬の基本から最新情報まで。

特に「服薬の真の目的は患者さんやご家族がその人らしい生活が送れるようサポートすること」「主治医に薬の相談をするときは、どんな生活上の問題が起きているかを伝えること」「相談相手に薬剤師という選択肢を持ってほしいこと」のお話が印象的でした。

地域ボランティア、障害当事者や家族、萌が協力しながら運営する市民団体「ハートフルこおりやま」。コロナ禍で活動が制限される中でできること、自分たちが「学ぶこと」の大切さを再確認しました。

個性が光る！

～ふれあい工房新 T シャツ～

作業やイベントで着用しているオリジナル T シャツをリニューアルしました。

せっかくなので、みんなで作りたいたふれあい工房にちなんだイラストを募集。

すると「花の宅配」や「清掃活動」についてや、大和郡山市でおなじみの金魚をモチーフとしたものなど、たくさんの素敵なイラストが集まりました。

できるだけ多くのイラストを盛り込んで作成。

もちろん前回の T シャツ同様、オリジナルキャラクターの「ふれあいくん」も入っています。

イラストが得意な人、メッセージを考えるのが得意な人、文字をかわいく書くのが得意な人など、それぞれの個性を組み合わせた世界に一つだけの T シャツが完成。

素材や色合にもこだわり、みんなで話し合いを重ねて大満足の仕上がりとなりました。



前も後ろもかわいいイラスト♪

家族教室のご案内

家族教室は精神障害のある人を支えるご家族の方が集い、話し合う勉強会として生まれました。

第一回目は、令和 3 年 11 月 16 日(火) 14 時～15 時半まで市民交流館で開催します。講師は、精神科医で五条山病院診療部長の町澤暁先生。「統合失調症について」と題し、疾患の説明や治療法などについてのお話です。

今年は感染症予防対策として、オンラインでの開催となりました。また、先着 20 名に限り、大和郡山市のホームページから申込み制となっております。締切は、10 月 29 日です。ぜひお申し込み下さい！

第 2 回目は令和 3 年 12 月 9 日(木) 14 時～15 時半市民交流館にて、たんぼの家生活支援センター相談員内山尚子さんによる「精神の障害がある人の家族の対応～知的障害・身体障害がベースにある場合～」になっています。

西和エリア

生活支援センターばと・ベル 0745-43-5541 地域活動支援センターまーぶる 0745-75-6545

らそら 0745-70-1577 グループホーム彩友館 0745-43-9333

‘働きやすい職場環境’を考える

20 周年を迎えた萌。利用者の生活を支えるためには、職員が安心して働き続けられる職場環境が求められます。

夏号の高田エリアページでは育児休業の現状を取り上げました。今回は、西和エリアの入職 1～2 年目の職員に働きやすさについてインタビュー。下村美里さん(生活支援センターばと・ベル)、宮地有美さん(らそら)、橋村ほのかさん(地域活動支援センターまーぶる)の3人が答えてくれました。

■入職のきっかけや、働く上で重要視していることは何ですか？

宮地≫地域で精神に特化して活動しているところを探した。完全週休2日制で連休が取れる点も魅力。萌に就職してからは休息がとれている感じがしている。研修が勤務扱いになるのもありがたい。

下村≫精神保健福祉士の資格を活かしたいという思いと、法人に知人がいて安心感があったため応募。完全週休2日制は子育てをしている共働き世代にとってもありがたい。

橋村≫私も、地域で活動していて精神に特化しているところを希望。入職してから1年半経つが、残業をすることもなく健康的に働いている。また研修制度がしっかりしているという印象もある。

■2人は萌以外での経験がありますが、前の職場では研修制度はありましたか？

宮地≫萌のように経験年数ごとのステージに合わせた研修はなかった。萌では参加者の年代が近いので、意見が言いやすく学びにつながりやすい。

下村≫前の職場では、法人内研修はあっても入職時の1回のみ。萌では研修が通年であるので、横のつながりはもちろん、講師となる先輩との縦のつながりもでき、気軽に相談しやすい。中途採用者(経験者)も参加できることはありがたい。



キーワードは「つながり」と「安心」

■研修は働きやすさにつながっているんですね？

全員≫うんうん。

下村≫あとはメンター制度も。正直に話しても受け入れてくれる安心感がある。エリアを超えたつながりや情報交換の機会にもなっている。

宮地≫「ただ聞いてほしい」を出せる場は貴重。話すことで、気づいていなかった自分の思いに気づく機会になっている。評価されないことも安心につながっている。

橋村≫メンターは年の近い先輩。その先輩メンターの新任者時代の話聞けることで、先輩でも悩んでいた時期があったんだと思え、安心できる。

下村≫今年は選択制。継続を希望すると、「職場に馴染めてないの？」と心配されたことがあったが、馴染めていないからではなく、何年目でもつながりや安心感、吐き出す場は必要だと感じている。

■研修やメンター、所属機関での実践を通して、自身に変化はありましたか？

下村≫理解できていなくても「これを聞いたらどう思われるだろう」と聞けなかった時期があった。でも、それでは働いている時間が無駄だなと思うようになり、そこからはどんなことでも聞くようになった。踏み込こんで聞けるようになったことで、教えてもらえることも増え日々吸収している。

宮地≫グループホームで働いていた時には、「この人がしたい生活を職員としてどうやって支えていくのか」という視点だったが、今は作業所で一緒に働く仲間としてどんな風にやりがいを持ってもらえるかという視点へと広がった。メンバーがいないと作業ができない。お互いがいないと成り立たない。対等だと感じる。

橋村≫今は地活に所属。地活は場の提供だけのイメージだったが、実際は個別支援もし、生活にも介

入している。所属機関によって、支援に決まった形はないんだと感じている。まだ一人では踏み出せないところがあるため、職場でもしっかり相談しながら取り組んでいる。

高田 エ リ ア

生活支援センターなつつ	0745-23-7214	地域活動支援センターなつつ	0745-23-8105
マインドホーム高田	0745-23-8072	おかわり	0745-23-5625
えいぶる	0745-52-5752	あっとほーむ香芝	0745-44-8023

「久しぶりに会えてうれしい」 秋津鴻池病院との交流会が再開

コロナウイルスの影響で開催を見合わせていた病院との交流会。9月、約1年半ぶりに秋津鴻池病院との交流会が再開されました。今回はその様子をお届けします。



パソコン越しで自己紹介をするなつつの利用者

今回行ったのは、地域活動支援センターなつつと秋津鴻池病院の交流会。病院で様々な理由から長期間入院している患者を対象に、なつつの利用者や職員が交流したり、地域生活で受けられる支援の紹介などを行っています。

この交流を通して退院後の生活を考えたり、安心して退院できるきっかけになれば、と2カ月に1回の頻度で開催されてきました。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け交流会は中断。約1年半ぶりの再開です。

今年の夏、なつつから病院へ再開の提案をしたのがきっかけでした。病院内でも担当の職員が交流会の実施の希望についてアンケートを実施。

患者から参加したいと意思表示があったり、企画書を作成するなど、実施に向けて院内での調整を経て今回の開催に至りました。

交流会のテーマは「オンラインを体験してみよう!」。パソコンを使用し、リモートで自己紹介やランキング当てなどのゲームを楽しみました。

普段は感染対策のため、病棟間の交流や面会ができない日々が続いています。今回の参加者はなつつの利用者、相談支援事業所やグループホームの職員・入居者の計6人。病院側の顔ぶれもこれまでの参加者でなじみのメンバーです。

久しぶりにお互いの顔を見ることができ、「久しぶりにみんなに会えてうれしい」と再会を喜びました。ゲームでは病院側のチーム、なつつ側のチームに分かれてランキング当てを実施。

「人気のおでんの具は?」「秋といえば」「好きな動物」など、様々なテーマでランキングを予想します。予想が外れたときは悔しがったり、当たったら拍手したり、想定よりも開催時間も長く、終わりが名残惜しい会となりました。

コロナ禍が猛威を振るい、精神科病院との交流会の実施が難しい中、病院側の協力のおかげもあり無事に再開することができました。

改めて対面で会うことの良さを再発見できた反面、「まずは今できることから取り組んでいこう」と、この状況下でもオンラインというツールを使って再び集まることができたことは大きな一歩です。

収束がなかなか見えない状況が続いていますが、今後も対面で会える日を待つだけではなく、今できることを探して活動していきます。



ゲームも盛り上がりました

櫃 原 エ リ ア

生活支援センターぴあぽ〜と	0744-24-2020	地域活動支援センターぴあぽ〜と	0744-24-2070
生活支援センターいろは	0744-32-7753	ひなた舎	0744-32-7745
Pit 八木	0744-21-5666	グルームホーム南	0744-24-2050

祝 10 周年☆〜ゆめにむかって〜

2020年 Pit 八木は、10 周年を迎えました。

10 周年記念として、ホームページのリニューアルを行い、記念動画を作成することになりました。

記念動画はミーティングで何度も話し合い、1 年かけてじっくり作成し、2021 年 7 月によりやく完成しました！

動画内ではレクリエーションなどの 10 年間の写真や、内職作業や福祉用具の洗浄作業をしている利用者のインタビューを載せています。

動画は Pit 八木ホームページから誰でも観ることができます。5 分くらいなのでお時間ある時にぜひ見て下さい!!

利用者からは「みんなに興味を持ってもらえるようなホームページになったと思う」「動画の撮影と一緒に出来て良かった」「10 年か〜気づけばあっという間だったなあ〜」などの感想がありました。

さらに 10 周年記念企画としてメンタルヘルスマガジンこころの元気+(NPO 法人地域精神保健福祉機構コンボ)の表紙に応募することに!写真を撮るポーズや自己紹介コメントをいろいろと考え、それぞれが気に入ったものを選び送りました。

すると見事!!利用者3人と職員が 2021 年の 8 月号の表紙を飾りました!!!

表紙に載った利用者からは、「病院の先生や知り合いに自慢できた」「親も喜んでくれた」という声もありました。「ファンレターが届いたらどうしよう」と心配している人も(へ♪

全国デビューしちゃいました☆

Pit 八木では現在も 10 周年記念企画をみんなでワイワイと話し合いながら進めています。今は、パンフレットのリニューアルについても検討中です。

これからもみんなで楽しく穏やかに活動が続けていきたいと思いますので今後ともよろしくお願いします!



Pit 団らん風景 今日はテイクアウトでカレー♪

さくらんぼ便り

ホームヘルプステーションさくらんぼ
0743-54-0800

ライク通信

なら西和障害者就業・生活支援センターライク
0743-85-7702

心も備えておきましょう

猛暑と長雨の夏が過ぎて、ほっとひと息ついた頃。今度は台風が気になる季節です。台風に限らず、災害には備えが必要ですが、つつい後回しになりがち。さくらんぼでは防災を考えるきっかけとして、5 月に改正された「新たな避難情報等」を周知する文書を、過日利用者さんひとり一人に配付しました。

転居などにより避難所が不明な方、避難所へのルートが分からない方については、担当のサービス提供責任者が一緒に歩いて確認することも、今後実施していきます。

物品を備えておくことはもちろん大切ですが、それぞれの事情により、十分な準備が難しいこともあります。身を守る為にどのように行動するか、そういった心の備えを呼びかけています。

参加しやすいオンラインサロンづくり

コロナ禍を機に、ライクでは昨年からのオンラインサロンを実施しています。参加者からは、「何でも話せる」、「この場があるから仕事が続けられる」との声をいただいています。まだまだ参加者は少ない状況です。

コロナ収束の見通しが立たない中、つながりを切らさないためのよりよいオンラインサロンづくりに向けて、登録者を対象にアンケートを実施しました。参加したことのない方からは、「参加したいけど、接続や操作方法、参加の仕方がわからない」、「話せるか不安」といった声が多くありました。

今回いただいたご意見をもとに、安心してつながり、参加しやすいオンラインサロン作りを進めていきます。



★萌風香の購読★

萌風香は年 4 回 1500 部ずつの発行です。皆様のお手元に届いた後、萌のサービス利用者以外の方で「引越して住所が変わった(住所変更)」「次からは送ってもらわなくても結構です(購読中止)」という場合、お手数ですが必ず萌風香編集部ひだまり(0743-85-4196)までご一報くださいますようお願いいたします。

▽ 萌 後援会からのご案内

萌後援会は「社会福祉法人萌」の活動を支援していただける皆様の募集しております。

主な目的は法人事業の支援や寄付を行なっています。

会費の納入及び寄付の受付口座は郵便振替 社会福祉法人萌後援会
00920-4-221824

後援会事務局(萌総務部内)
0743-54-0821(大東)

▽ ハートフルこおりやま

精神障害者の社会参加をすすめる会

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくり」をすすめる当会では、会の趣旨に賛同頂き、活動に協力して下さる会員さん・ボランティアさんを大募集しています!!年会費は1口 500 円(2口からお願いします)です。

連絡先:会事務局 ふらっと内
0743-54-3977(桑原)

▽ 生駒精神障がい者後援会

ひだまりクローバー

第26回トーク&ライブひだまりクローバー2021

日時:12月18日(土)開場13時 開演13時半~
場所:生駒市図書館 3階市民ホール
内容:岡直弥 クロマティックハーモニカコンサート
ゲストシンガー山尾賀洋子他メンバーとコラボ
参加費:1000円(小学生以下および学生証・障害者手帳の提示で無料)
連絡先:ひだまりクローバー事務局
0743-73-1050(コミュニティスペースはなな)

▽ 地域家族会の情報

新型コロナウイルスの影響で、各例会の開催が中止・延期など変更されています。詳しくは、下記の各団体・お問い合わせ先にご確認ください。

詳細は まほろば会(NPO 奈良県精神障害者家族会連合会)

TEL:090-9213-2731 FAX:0742-51-5506 <https://nijiironokaze.jimdo.com/>

名称	月例会	時間	場所	問い合わせ先	電話番号
さくら会 (大和郡山市周辺)	第3日曜日	13:30~	三の丸会館	会長関野	0743-54-6375
ひだまり会 (生駒市周辺)	第3土曜日	13:30~	市民活動推進センター ららポート	会長上村京子	0743-78-0885
西和家族会 (西和7町周辺)	第4土曜日	13:30~	王寺町やわらぎ会館	西村	0745-74-6203
すみれ会 (大和高田市周辺)	第3日曜日	13:30~	大和高田市中央公民館	三島	090-9889-7984
のぞみ会 (橿原市周辺)	第2日曜日	13:30~	県心身障害者 福祉センター	ぴあぽ〜と	0744-24-2020